

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2021-006
2.研究課題名	緩和ケア看護師が終末期患者に寄り添うことを支援する介入プログラムの開発に関する研究
3.研究期間	令和3年9月（倫理委員会承認後）～ 令和5年 3月 31日
4.研究の概要	意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての的確に記すこと。） 緩和ケア従事者は業務の性質上ストレスによるメンタルヘルスの悪化やバーンアウトの多さが指摘されている。このような問題に対し、スタッフ個人の死のとりえ方に対する知見は先行研究によって多く積み重ねられており、実践的な心理教育や支援の取り組みも多くされているが、死に関連した教育は施設ごとに委ねられているという現状の課題も見られる。また、そのような死のとりえ方には、人生の見通しを示す時間的展望という心理的概念が密接に関連することが示唆されている。適応的な時間的展望を形成することはメンタルヘルスの維持・向上と関連し、緩和ケアにおいてもスタッフが適応的な時間的展望を有することで、終末期患者への関わりに前向きになったり、自身の職業への意味を強く感じることに繋がるものと考えられる。 以上より、本研究は緩和ケア従事者のうち最も多くの割合を占める看護師を対象として、看護師が終末期患者に寄り添うことを支援することを目的とした、時間的展望の視点からの心理的介入プログラムの開発およびその効果検証を行うことを目的とする。 方法 研究対象者は、現在緩和ケアで働いている看護師30名程度とし、クラウドソーシングサービスを通して参加者を募集する。適格条件は、①現在緩和ケア病棟もしくは所属機関の緩和ケアチームに属している者、②①での従事が看護職としてのキャリアの中で3年未満である者、(研究実施時にこの条件を超えないよう、募集時には2年半以下の者を募集する)③オンラインの環境が整備されている者、とする。 対象者は介入群15名と統制群15名にランダムに振り分け、群ごとに時期をずらし、適応的な時間的展望の形成を目指した介入プログラムを約1か月間実施する。また、介入プログラムの効果検証として事前調査、事後調査、プログラム終了から3か月後のフォローアップ調査を、Googleフォームを用いて行う。 介入プログラムは5つのセッションから構成される。セッション1では20分程度の解説動画の視聴をしてもらう。セッション2、3では自記式のワークシートに各自取り組んでもらう。これらはそれぞれ1週間程度の期間を設け、期間内にオンライン上で提出を求める。セッション4では各自で1時間程度の作業形式のワーク（展望地図法）に取り組んでもらい、その結果に基づいた30分程度の個別面接をオンライン上で行う。セッション5では、オンライン上で参加者同士が作成した展望地図を分かち合う場を設け、お互いにディスカッションをしてもらう。 研究全体を通し、倫理的配慮として、プライバシーの保護、任意性の確保、個人情報の取り扱いなどに十分に注意し、そのことを参加者に説明する。また、研究参加への負担を留意し、負担を感じた場合には研究参加の中断をしてよいことについても説明する。 研究参加者へはクラウドソーシングを通して10000円の謝礼を支払う。ただし、研究を中断した場合には、原則、謝礼は支払わないものと

	する。
	問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学大学院教育学研究科 総合教育科学専攻 臨床心理学コース 電話番号：022-795-6149 東北大学川内南地区「人を対象とする医学系研究」 倫理審査委員会事務局 電話番号：022-795-6130

(紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。)